

平成17年度道徳教育実践研究指定事業定例報告会

平成17年7月4日

広島市立早稲田中学校

「道徳の時間の特質と授業づくり」

～生徒指導と道徳教育～

高知市立三里中学校
教諭 島内啓介

1. 道徳教育について

教育の目的・・・「人格の完成をめざす」

道徳教育の目標

学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲などの道徳性を養うこと → 「道徳性の育成」

人間らしいよさであり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたもの

道徳の時間の目標

道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、それらを補充、深化、統合し、道徳的価値及び人間としての生き方の自覚を深め、道徳的実践力を育成すること

2 生徒指導（生徒理解）と道徳教育（道徳の時間）

生徒指導とは生徒を理解することから始まる（資料2）

- * 学級担任だからこそ理解できることもあるのでは
- * 学級経営と生徒指導や道徳の時間とのかかわり
- * 生徒同士・生徒と教師・教師同士の人間関係の確立
- * 人間関係確立には相手を理解すること、理解しようとすることが大前提
- 生徒の道徳性は日々の人間関係で培われることが多い
- 道徳の時間の指導の基本方針（中学校学習指導要領解説編 p 71）
 - * 道徳の時間の特質を理解する
 - * 信頼関係や温かい人間関係の確立を促す
 - * 生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する
 - * 生徒の差違や個に応じた指導方法を工夫する
 - * 道徳の時間が道徳的価値の自覚を深めるかなめとなるように工夫する
 - * 基本方針についての理解を深める

3 道徳の時間で気にかけていること

- ① とにかくやろう。 (資料3)
指導過程や指導方法など細かい部分にこだわる必要はないのでは
- ② 学年単位で行う。(全員が共通の課題を持つ)
- ③ 生徒からの本音の発言を引き出すように。
最初は発言しやすい資料などで訓練する必要もあるのではないか。
生徒の発言を受け止めることは大切では
- ④ 道徳の時間のルールを決める。
学年はじめは特に注意して
- ⑤ 先生自身が楽しく。(資料4)
気楽に楽しく、肩の力を抜いて。
- ⑥ 生徒と同じ目線で (資料5)
先生だって失敗はあるし、同じ人間として接していくたい。
- ⑦ 道徳の時間だけでなく、各教科や総合、朝の会、帰りの会など (資料6)
心のノートなどうまく使えないだろうか。
- ⑧ 参観日には道徳の授業を。(資料7)
保護者や地域も一体になつた授業を行いましょう。
- ⑨ 伝えたいメッセージは伝える。

4まとめ

たった1時間だからこそ大切にしたい道徳の時間
でも道徳だけではだめ。すべてに全力投球を。きっと生徒は見ててくれています。
全ての基本は生徒理解ではないでしょうか。
学級に行くのが楽しくて楽しくて仕方ない (資料8)

※ 資料1、資料4～資料6の出典：既教育図書
※ 資料7 「たったひとつのたからもの」 加藤浩美 著
※ 資料8 中等教育資料